

会 議 録

会議録	平成30年度 第4回 豊田市公共交通会議
次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議 事</p> <p>【協議案件】</p> <p>(1) とよたおいでんバスの路線改編について</p> <p style="padding-left: 20px;">①保見・豊田線</p> <p style="padding-left: 20px;">②小原・豊田線</p> <p style="padding-left: 20px;">③藤岡・豊田線（西中山経由）</p> <p style="padding-left: 20px;">④中心市街地玄関口バス</p> <p style="padding-left: 20px;">⑤土橋・豊田東環状線</p> <p>(2) 地域バスの路線改編について</p> <p style="padding-left: 20px;">①旭地域バス（路線定期運行・区域運行）</p> <p style="padding-left: 20px;">②足助地域バス（路線定期運行）</p> <p style="padding-left: 20px;">③松平地域バス（区域運行）</p> <p style="padding-left: 20px;">④稲武地域バス（区域運行）</p> <p>【報告案件】</p> <p>(1) とよたおいでんバスの路線改編について さなげ・足助線</p> <p>(2) 地域バスの路線改編について 小原地域バス（区域運行）</p> <p>(3) 鞍ヶ池地域タクシー実証実験の評価について</p> <p>(4) 快速いなぶを活用した農産物の貨客混載実証実験の評価について</p> <p>(5) 年末ナイト便の実績について</p> <p>(6) 藤岡地域バス社会実験（乗継割引）の報告</p> <p>(7) 豊田市バス情報 Google マップへの掲載について</p> <p>(8) 平成30年度豊田市幹線系統 国庫補助対象路線の評価について</p> <p>4 その他</p> <p style="padding-left: 20px;">・次回会議の開催予定について 平成31年6月</p> <p>5 閉 会</p>
日 時	平成31年2月13日（水） 午後2時00分～午後3時40分
場 所	豊田市役所 南庁舎5階 南51会議室

出席者 (敬称略)	<p>【委員】 荻野 弘 (豊田工業高等専門学校) 野田 宏治 (豊田工業高等専門学校) 二輪 昭宏 (国土交通省中部運輸局愛知運輸支局) 榊原 仁 (愛知県振興部交通対策課) (代理：原) 岩月 康男 (愛知県豊田加茂建設事務所維持管理課) 坂部 哲也 (愛知県豊田加茂建設事務所足助支所管理課) 岩月 正光 (豊田市都市整備部) 中田 繁美 (豊田市社会福祉協議会) 三宅 利幸 (豊田市区長会) 加藤 憲治 (愛知県タクシー協会) 毛利 康浩 (愛知県交通運輸産業労働組合協議会) 浅野 直宏 (名古屋鉄道株式会社) (代理：杉本) 吉岡 実 (名鉄バス株式会社) 境 政義 (豊栄交通株式会社)</p> <p>【事務局】 豊田市 都市整備部交通政策課</p>
資料	1. 次第 2. 平成30年度 第4回 豊田市公共交通会議 会議資料

【協議案件】

(1) とよたおいでんバスの路線改編について

①保見・豊田線

○事務局 【資料1-1】に基づき説明。

意見等なし。

<協議結果：全員承認>

②小原・豊田線、③藤岡・豊田線（西中山経由）

○事務局 【資料1-2、1-3】に基づき説明。

○委員 上中山バス停の移設にかかる警察との調整状況を教えてほしい。

○事務局 現行バス停が三叉路にあり乗降の際に通行車両に支障があるため、支障のない位置に移動させるよう指示をいただいた。地元と調整をして、支障のない位置に移設することとした。

<協議結果：全員承認>

④中心市街地玄関口バス

○事務局 【資料1-4】に基づき説明。

○委員 エコフルタウンに乗り入れるのは豊田市の ITS の先進的な取組として、市役所への乗り入れと同じシステムを使って始めたもの。豊田市の政策として運行させていたはずであり利用が少ないから廃止するという次元の話ではない。エコフルタウンバス停を廃止することで玄関口バスの意味が失われると考える。

○事務局 玄関口バスの位置づけは、おっしゃる通り元々は市役所に呼び出し式のバス停があったことから来ているが、エコフルタウンバス停廃止後もいくつかの行政機関の前を通り、福祉センターにおいては玄関口まで乗り入れていることから、これまで通り玄関

口バスとして運行していきたい。また、ITS 技術を政策として見せるために、バスの位置情報は引き続きエコフルタウンで掲示していく。エコフルタウンの呼び出し式バス停は7年間で一定の効果があったと考えており、今後も自動運転など新しい技術を見せていく路線としていきたい。

○委員 遅延が発生するなら、PTPS（公共車両優先システム）を導入するなど渋滞緩和のため協議していくことが必要。公共交通の新たな展開を期待する。

○事務局 いろいろなアイデアをバス運行に反映していきたいと考えている。

<協議結果：全員承認>

⑤土橋・豊田東環状線

○事務局 【資料1-5】に基づき説明。

意見等なし。

<協議結果：全員承認>

(2) 地域バスの路線改編について

①旭地域バス（路線定期運行・区域運行）

○事務局 【資料2-1(ア)(イ)】に基づき説明。

○委員 警察との調整内容は。

○事務局 新設バス停について特段支障なしと意見をいただいている。

○委員 新規路線も問題なしか。

○事務局 これまでも区域運行のバス停がありバスが通行する道路であったが、定期路線としては新たな路線であり、それについても問題なしと意見をいただいている。

<協議結果：全員承認>

②足助地域バス（路線定期運行）

○事務局 【資料2-2(ア)(イ)】に基づき説明。

○委員 白鷺館バス停の新設はなぜこのタイミングか。新しい施設なのか。

○事務局 白鷺館は以前からある施設だが、これまで地域からバス停の要望はなかった。今回は通学に利用する学生がいるため新設する。

<協議結果：全員承認>

③松平地域バス（区域運行）

○事務局 【資料2-3】に基づき説明。

○委員 臨時便運行のための支出はどれぐらいか。

○事務局 この取組は29年度から始めた。29年度の利用者数は、5イベント合計で409名、経費は11万余、利用料収入は59,200円、収支率は50%超えている。30年度は台風の影響があり最も利用者数の多いイベントが中止になったため、4イベントで合計114名の利用者数となった。この取組により、地域バスを知るきっかけとなりバスの一般予約の利用数が増加しているため、一定の効果を感じている。

<協議結果：全員承認>

④稲武地域バス（区域運行）

○事務局 【資料2-4】に基づき説明。

意見等なし。

<協議結果：全員承認>

【報告案件】

(1) とよたおいでんバスの路線改編について

さなげ・足助線

- 事務局 【報告1】に基づき説明。
- 委員 猿投駅での発車時間を遅らせた後、広瀬でその分を吸収するのは実際の運行上実現可能か。
- 委員 検証したが可能である。
- 委員 利用者からの要望による変更とあるが、期間的にはどれぐらいかかったか。
- 事務局 要望は数年前から毎年のように寄せられていたが、さなげ・足助線は広瀬で旭・豊田線と接続、猿投駅、愛環四郷駅、浄水駅で鉄道と接続するなど、調整の難しい路線であり、なかなか改正をすることができなかった。今回、データ分析をする中で豊栄交通さんと調整をさせていただき、改正に至った。
- 委員 利用者に積極的アピールしていただきたい。

(2) 地域バスの路線改編について

小原地域バス（区域運行）

- 事務局 【報告2】に基づき説明。
- 委員 廃止バス停について、地元の住民が集まる集会所前や老人の集う場所のバス停を安易に廃止していくことはやめたほうがいい。
- 事務局 ご意見については地域に伝える。

(3) 鞍ヶ池地域タクシー実証実験の評価について

- 事務局 【報告3】に基づき説明。
- 委員 実際の利用者の声は。利用回数と利用者数から見ると1回3～4人ほどの乗車だと思うが、窮屈などの意見はないか。
- 事務局 乗り合わせで窮屈等の意見はない。
- 委員 3～4人の乗り合いは小学生の通学に使われており、窮屈な思いはされていない。大人の利用はエリア外への通院、買い物などが多く、1人利用だと600円は高いという意見があるかもしれないが、乗り合わせで利用いただければドアツードアで便利に利用できる。予約制であるため、今後利用が広がっていくと予約を取れなくなる懸念もある。

(4) 快速いなぶを活用した農産物の貨客混載実証実験の評価について

- 事務局 【報告4】に基づき説明。
- 委員 どんぐりの湯前発15:52で豊田市着17:10だと時間が遅いため生鮮食品などの販売にネックではないか。早い時間にどんぐりの湯前を出て運ぶということも検討されたか。
- 事務局 検討したが、どんぐりの湯前発午前便に間に合わせるための荷物の送り出し準備が整わず現実となっている。今後検討の余地はある。
- 委員 ラックの荷崩れなどで乗客に支障が出ないように、今後ラックの改良も検討してほしい。

(5) 年末ナイト便の実績について

- 事務局 【報告5】に基づき説明。
- 委員 遅い時間の運行については、乗務員の勤務時間の厳しい状況についても加味していただきたい。

(6) 藤岡地域バス社会実験（乗継割引）の報告

○事務局 【報告6】に基づき説明。

○委員 これからの課題は地域バス同士の乗継のあり方である。今後積極的に見直しをしていただきたい。

(7) 豊田市バス情報 Google マップへの掲載について

○事務局 【報告7】に基づき説明。

○委員 とても素晴らしい取組だと思う。エリア限定でなく世界中の人が使える。国でも GTFS を活用した MaaS (Mobility as a Service) の動きがある。事業者、自治体ともアンテナを高く持って、取り入れられるものは積極的に取り組んでいただきたい。

○事務局 この取組により利用者の利便性が上がる。RWC を見据えて進めていきたい。またこれが目的ではなく、オープンデータ化をすることで、ダイヤを作成したりバスロケーションシステムに反映するなど様々な活用を検討し、MaaS としての考えに対応していきたい。

○委員 年配者にも使い方を講習いただけたらと思う。

(8) 平成30年度豊田市幹線系統 国庫補助対象路線の評価について

○事務局 【報告8】に基づき説明。

○委員 高岡ふれあいバスについて、住民の経済圏が知立方面であり、知立で飲酒してから帰りのバスがないという意見があった。

○委員 フィーダー補助金について市公共交通会議で協議しているが、そもそも幹線を活かすことを前提にフィーダーをどのように活用するかを考えるべきである。豊田市のフィーダーを考える上でしっかり幹線についても協議していただきたい。

4 その他

○事務局 次回、会議の開催予定について
平成31年6月開催を予定。

以上